

## みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	パストラル・ハーブ ミニストリー	
代表者名	横山 恭子	
連絡先:村上真理子 TEL:080-3721-4084(村上) FAX:022-288-6389(横山自宅)	E-mail:marikom21@gmail.com	

## 1、助成事業報告

助成を受けた事業名	癒しと祈りのハーブ2022
事業の目的	<p>病床にある患者様をはじめ全ての人にハーブと歌で心に寄り添った活動を主な活動としているが、本事業では以下を目的とした。</p> <p>&lt;研修・社会教育活動&gt;講師を招き研修会を行いメンバーの技術向上・学習機会とする。</p> <p>&lt;ボランティア活動&gt;コロナ禍により活動が制限されているが、待っている人に苦痛の緩和と癒しを届ける。</p>
事業の具体的内容	<p>&lt;研修・社会教育活動&gt;講演会又は演奏会を年1回行い、事業についての啓蒙と研修を図る。</p> <p>&lt;ボランティア活動&gt;患者様のベッドサイドやラウンジなどでのハーブ演奏。大学病院や緩和ケア施設、個人の要請により行う。コロナ禍により活動が制限されており、月1~2回の訪問する。</p>
活動の開始から完了までの流れ	<p>&lt;研修・社会教育活動&gt;</p> <p>①研修講座:7月10日(月)「満ち足りた死とは」金田諦晃氏(東北大学病院緩和医療科 臨床宗教師)</p> <p>②社会教育活動:6月3日(土)「ハーブとお話の小さな集い」</p> <p>&lt;ボランティア活動&gt;</p> <p>コロナ5類移行に伴い活動は緩和されたが、感染がおさまらず当日のコロナ検査を求められながら活動を続けてきた。(検査費用は自己負担)</p>
活動の成果と教訓	<p>&lt;研修・社会教育活動&gt;</p> <p>①研修講座:金田諦晃氏(東北大学病院緩和医療科)を迎え、看取りの活動をしている仲間とともに臨床の現場で繰り返されている日常を共有した。</p> <p>②社会教育活動:一般の方を対象に、日常を振り返り各々が抱える気持ちを共有しながら、ゆったりとしたハーブの音色で自分自身に寄り添う時間をもった。参加者の感想から、日頃ベッドサイドで行う相手の呼吸に合わせた演奏が、多くの人を癒すことを改めて知る。</p> <p>&lt;ボランティア活動&gt;</p> <p>コロナ5類移行により、事前に抗原検査(自己負担)を求めら</p>

	れるが、少しずつ日常の活動が再開された。ベッドサイドにはいけな施設もまだあり、患者様個人個人に合わせた寄り添いができていないのが現状である。患者様のご希望に添えない分、自作CDを無料でお渡ししていたが、昨今のスタイルに合うものとして配信データを用意した。(助成対象外)できるだけ多くの皆さんの枕元に届けたいと思う。
今後の展望など	拠点となる病院や施設を中心に、メンバー個々の活動が広がっていくことを目標とする。また雨の日雪の日もある中、大きなハープを都度運ぶのは大きな負担となっており、今後は拠点にハープを常設していきたいと考えている。施設の理解は既に得ているが、資金の調達が今後の課題である。

## 2、助成金使途報告書

### ■ 収入の部

確保した資金内容	金額(円)	備考
福祉活動助成金	185,000	
合計	185,000	

### ■ 支出の部

費目	内容	予算額(円)	実支出額
謝金	7/10金田諦晃氏講演会	40,000	20,000
会場費	講演会会場費 総会会場費	10,000	6,250
印刷代	団体リーフレット	10,000	3,520
消耗品費	弦、文房具等	100,000	75,817
交通費	病院施設等への移動	25,000	20,543
合計		185,000	126,130

\*福祉活動助成金 185,000円 - 実支出額 126,130円 = 残金 58,870円 は返金。

\*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

## 3、送付必要書類

- 福祉活動助成金 助成活動報告書  
プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。
- 領収書のコピー(郵送)
- 成果物(活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送)  
\*写真は郵送とメールで送ってください。



2023年6月5日『ハープとお話』



2023年7月10日 講演会后、金田諦晃氏を囲んで



活動の様子(杜の里にて)